

製本のススメ

Vol. 129

三寒四温と申しますが、最近の寒暖差はあまりにも急激ですね。春と言えない気温だったかと思えば、翌日は真冬です。体調管理には、本当に苦労いたしますし、合わせてインフルエンザも・・・まったくねえ

今回は**書籍と雑誌**の話し

この違いを明確に区別できるなら、製本以降の工程でも なんの心配もありません。でも、昨今 書籍も雑誌も同じと思っている若い人たちがどうやら急増しているようですので、古参としては一筆啓上といたします。

そもそも 書籍と雑誌は機能的にも制作の上からも大きな違いがあります。

書籍は 単行本から 学術書にいたるまで特定の内容を一巻(一冊)を通して収録するもので、発刊時期も特定の期日は設けられていません。**一般的には記録性 保存性に重要点がおかれており、長期使用も耐える必要があります。**

雑誌は 一定の誌名で、多くの記事を編集して定期的に発刊されるもので、出版の期間によって週刊誌 月刊誌 季刊誌 不定期刊行誌などがあります。**一般的には 情報性 速報性に重要点がおかれており、安価で生産性の高い印刷製本方式が使われます。** 普段 皆さんが作っている冊子のほとんどは雑誌として分類されます。無線綴じだから書籍というわけではありません。

余談になりますが、雑誌などの記事で連載物など、一部(またはその全部)を保存しておきたいという場合には、**合本**(ガッポン)という加工になります。出来上がりは書籍の上製本様式ですが、制作工程は全く違い、**上製本とは区別されています**ので、注意して下さい。

例年 春頃 そして秋頃には日常の印刷物とは少し違う加工依頼があることでしょう。その際には、保存性が重要なのか 速報性が重要なのかをきちんと見極めてプラン作りを進めないと、印刷の後加工(製本など)で、可笑しなものが出来上がってしまいます。不明点があれば、ぜひとも加工会社へお尋ねください。



Tea break

古代中国には三月初めの巳の日に川に入り身を清める上巳節という行事があり、それが日本へ伝わって室町時代の貴族子女の間で「ひな祭り」の原型ができたと言われています。それが安土桃山時代には、貴族から武家に広まり江戸時代には庶民の間にも広まって、桃の節句となっていきました。ちなみに桃の木は悪魔を打ち払う神聖な木とも考えられていたので、ひな祭りに飾るようになったそうです。

弊社ホームページはこちら www.isekiseihon.com

by (株) 井関製本

facebook「井関製本の日々」もよろしくおねがいします。